



株式会社UKCホールディングス 株主様へのご案内

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
基準日	定時株主総会：毎年3月31日
剰余金の配当の 基準日	期末配当：毎年3月31日 ※中間配当を実施するときの基準日は9月30日
定時株主総会	毎年6月開催
公告方法	日本経済新聞
ホームページ	http://www.ukcgroup.com/
証券コード	3156
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
郵便物送付先 (連絡先)	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL:0120-232-711

【お知らせ】

- 住所変更・単元未満株式の買取等のお問い合わせ先について
お取引口座のある証券会社にお問い合わせください。
- 特別口座に記録された株式に係る各種手続きについて
下記の特別口座管理機関にお問い合わせください。
 - ①株式移転前の株式会社ユーエスシー株式をご所有の株主様
〒168-8522 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
東京証券代行株式会社 事務センター
TEL:0120-49-7009
 - ②株式移転前の共信テクノソニック株式会社株式をご所有の株主様
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
TEL:0120-232-711
- 未払配当金のお支払いについて
支払期間経過後の配当金につきましては、株主名簿管理人である
三菱UFJ信託銀行株式会社本支店でお支払いいたします。
ご郵送の場合は上記郵便物送付先までご送付ください。

株式会社UKCホールディングス
〒141-0032 東京都品川区大崎一丁目11番2号
ゲートシティ大崎イーストタワー15階
TEL 03-3491-6575 FAX 03-3491-7825
<http://www.ukcgroup.com/>

証券コード：3156

2014年度第2四半期(第6期)
2014年4月1日～2014年9月30日



株主の皆様へ



代表取締役社長
福寿 正男

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。また、平素からの皆様のご支援、ご高配に心より厚く御礼申し上げます。

当第2四半期連結累計期間(平成26年4月1日～9月30日)の当社グループにおきましては、海外のスマートフォン向け販売の一時的な停滞により、売上高は前年同期比で減少しましたが、事業本体は概ね期初の想定通り進捗しました。しかしながら、主要取引先1社が、台湾において会社更生及び会社財産保全処分の申請を行ったことに伴い、貸倒引当金繰入額545百万円を販売費及び一般管理費に計上したため、営業利益は期初計画を下回る結果となりました。当社としましては、債権債務の相殺、債権の回収の取り組みとリスク管理の強化を継続してまいります。なお、前年同期に海外子会社において、貸倒引当金を計上した売上債権につきましては、取引先との係争など回収に向けた取り組みを継続しております。

下半期の経営環境につきましては、市場・顧客動向など予測が難しい状況にありますが、迅速な経営判断のもと、引き続き効果的・効率的な事業運営に努めてまいります。

さて、皆様のお陰をもちまして、当社はこの10月1日に設立5周年を迎えることができました。最初の3年間は構造改革期間として、EMS事業(自社工場)への投資やスマートフォン市場への注力といった事業構造転換(高付加価値化)に加え、グループ再編を通じたオペレーションの効率化や固定費削減の取り組みを行いました。続く2年間は中期的な成長に向けた取り組み、種まきを行ってまいりました。業務資本提携による製品ラインアップの拡張やソリューション志向への転換の取り組みもその一環です。ここからの1年はその総仕上げと成果出しの期間として、成長に向けたより積極的な施策を打ち出すとともに、目に見える結果を追求してまいりたいと考えております。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

会社概要 (2014年9月30日現在)

商号	株式会社UKCホールディングス (英文名: UKC Holdings Corporation)																
本社	東京都品川区大崎一丁目11番2号 ゲートシティ大崎イーストタワー15階 TEL 03-3491-6575 FAX 03-3491-7825																
設立	2009年10月1日																
資本金	43億83百万円																
事業内容	各種半導体・電子部品、電子機器、システム機器販売事業、半導体等の信頼性試験・環境物質分析サービス及び、EMS事業等を営むこと、並びにこれらの事業を営む会社の株式又は持分を保有することにより、当該会社の事業活動を支配・管理すること																
従業員数	単体61名 連結1,293名																
取締役及び監査役	<table border="0"> <tr> <td>代表取締役社長</td> <td>福寿 幸男</td> </tr> <tr> <td>取締役副社長</td> <td>田口 雅章</td> </tr> <tr> <td>取締役副社長</td> <td>小島 茂</td> </tr> <tr> <td>取締役</td> <td>山下 隆明</td> </tr> <tr> <td>取締役(社外)</td> <td>大根田 伸行</td> </tr> <tr> <td>常勤監査役</td> <td>森田 清文</td> </tr> <tr> <td>監査役(社外)</td> <td>秋山 治一</td> </tr> <tr> <td>監査役(社外)</td> <td>松村 幸祐</td> </tr> </table>	代表取締役社長	福寿 幸男	取締役副社長	田口 雅章	取締役副社長	小島 茂	取締役	山下 隆明	取締役(社外)	大根田 伸行	常勤監査役	森田 清文	監査役(社外)	秋山 治一	監査役(社外)	松村 幸祐
代表取締役社長	福寿 幸男																
取締役副社長	田口 雅章																
取締役副社長	小島 茂																
取締役	山下 隆明																
取締役(社外)	大根田 伸行																
常勤監査役	森田 清文																
監査役(社外)	秋山 治一																
監査役(社外)	松村 幸祐																

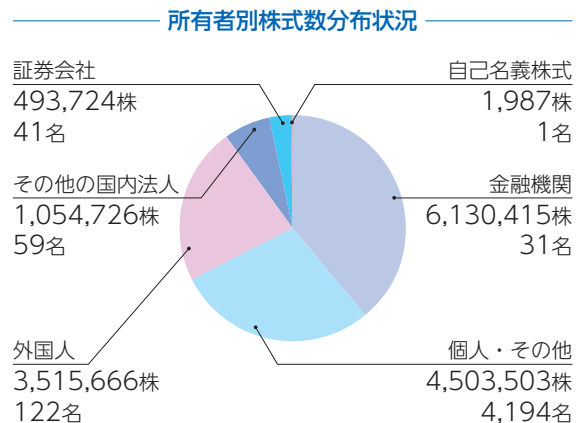
株式の状況 (2014年9月30日現在)

発行可能株式総数	57,000,000株
発行済株式総数	15,700,021株
株主数	4,448名

■大株主

株主名	株式数 (千株)	持株比率 (%)
みずほ信託銀行(株) 退職給付信託ソニー株003口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行(株)	2,234	14.23
ピーピーエイチ フォー フィデリテイ ロー プライズ ストック ファンド (プリンシパル オール セクター サポートフォリオ)	1,519	9.67
みずほ信託銀行(株) 退職給付信託東京都民銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行(株)	623	3.97
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	536	3.41
(株)三菱東京UFJ銀行	496	3.16
中山 邦子	400	2.54
(株)みずほ銀行	370	2.35
明治安田生命保険(株)	295	1.88
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	270	1.72
(株)エヌイーアイ	230	1.46

■株式分布状況



トピックス

UKCグループの自動車向け事業

当社グループの用途別売上高としては、スマートフォン向け、デジタルスチルカメラ向けがNo.1、No.2ですが、その次にくるのが自動車向けです。ここでは、当社グループの自動車向け事業の現状と将来展望についてご紹介します。

■インフォテインメント用途



インフォテインメント (Infotainment) とは、「Information (情報)」 + 「Entertainment (娯楽)」を意味する自動車業界の造語です。この分野において、当社グループはカーナビゲーションシステムやインパネ (インストルメント・パネル: 速度計、タコメーター、燃料計、水温計、距離計など、自動車の走行に必要な情報を指し示す計器類) 向けの中小型液晶を取扱っており、これが現状のメインビジネスになっています。カーナビ用途では、コストと品質にバランスの取れた当社取扱い製品は純正モデル向けも含め、日本の多くのお客様 (メーカー) に納入しています。

■ADAS、自動運転用途



ここにきて、脚光を浴びているADAS (エーダス: Advanced Driver Assistance Systems、先進運転支援システム) やその延長線上の自動運転の用途は、安心・安全な走行への社会的・法的要求を背景に今後市場の拡大が見込まれる分野です。ADASは、歩行者の検知、緊急ブレーキシステムの作動、走行レーンの維持などの機能を実現します。

この用途での当社グループの主力商材は、ソニー製のイメージセンサーです。イメージセンサーはスマートフォン、デジタルスチルカメラ向けでおなじみですが、自動車向けには、高感度と高度な信号処理技術が要求されます。当社グループでは、現在、ソニーが自動車用に新たに開発した製品の商談を自動車関連のお客様と行っており、2015年下期以降、実ビジネスにつなげていきます。

■今後の取り組み



自動車産業は、自動運転でGoogleが頭角を現すなど、新旧問わず数多くのプレーヤーが参加する競争の激しい産業です。その中で、当社グループが存在感を示すためには、自動車向け商材のラインアップ拡大はもとより、単品販売を超えたシステムやソリューションの提供が必要になります。また、世界に広がるお客様の生産拠点に対するサポートも重要です。当社グループは、自社リソースの充実に加え、外部との連携も積極的に組み合わせて、自動車向けの売上の拡大を実現してまいります。

UKCグループの業績をご報告します

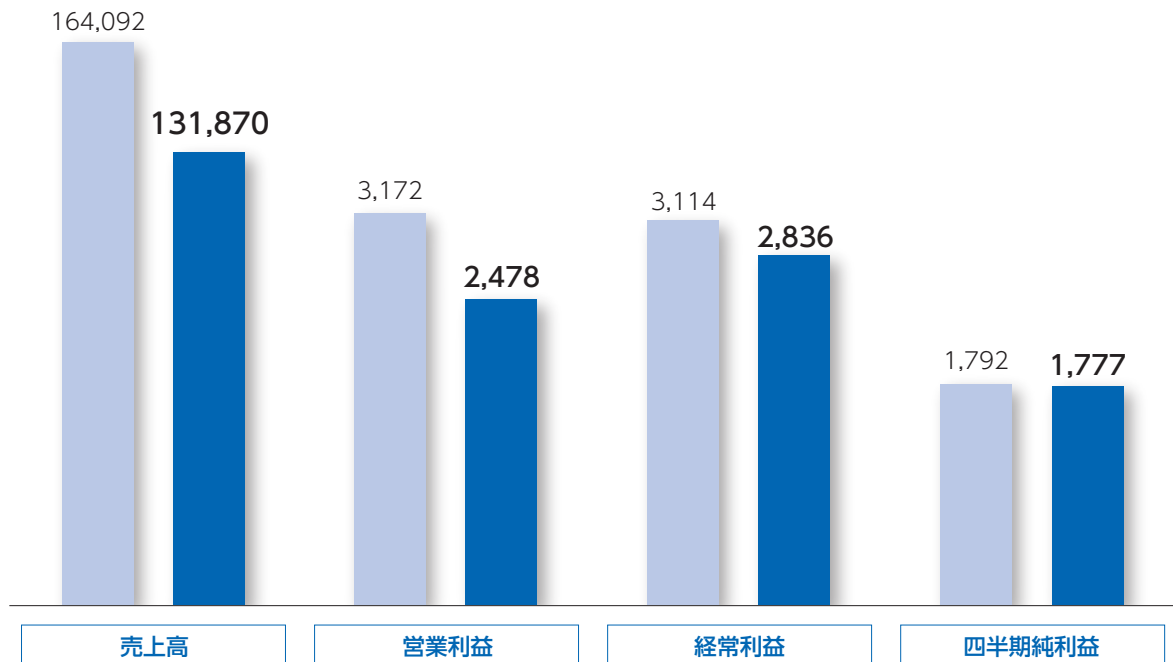
より詳細な情報は当社ホームページへ

UKC 決算短信

検索

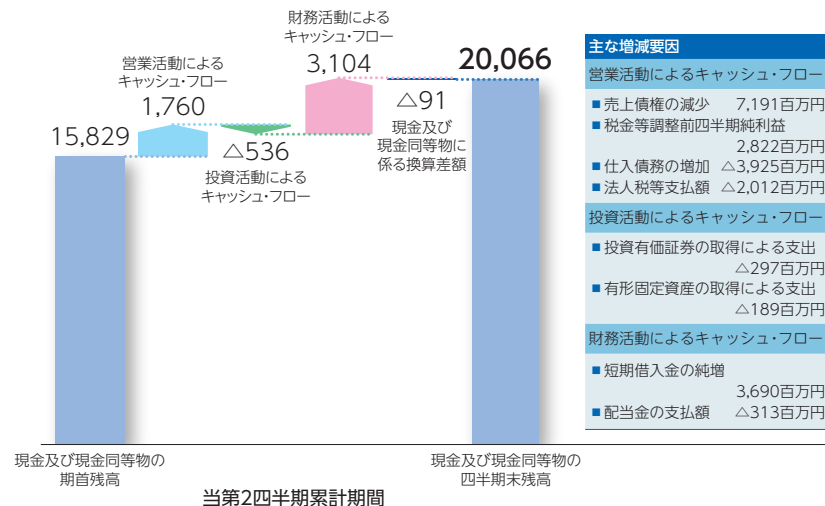
■ 四半期連結損益計算書 (単位:百万円)

■ 前第2四半期累計期間
■ 当第2四半期累計期間



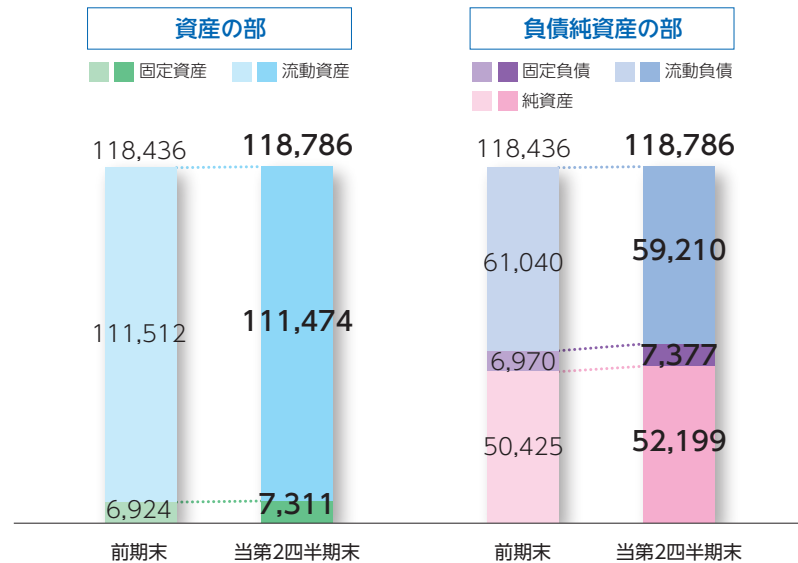
POINT	POINT	POINT	POINT
前年同期比	前年同期比	前年同期比	前年同期比
△322億円 (△19.6%)	△6.9億円 (△21.9%)	△2.8億円 (△8.9%)	△0.1億円 (△0.8%)
ポイント	ポイント	ポイント	ポイント
■主に、海外のスマートフォン向け販売の一時的な停滞により前年同期比減	■減収に加え、台湾Wintek社が会社更生及び会社財産保全処分の申請を行ったことに伴い、貸倒引当金繰入額545百万円をSGAに計上したこともあり減益	■為替差損益の改善(82百万円差損⇒334百万円差益)により、計画から若干上ぶれ	■ほぼ、前年同期、期初予想並み

■ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)



主な増減要因	
営業活動によるキャッシュ・フロー	
■ 売上債権の減少	7,191百万円
■ 税金等調整前四半期純利益	2,822百万円
■ 仕入債務の増加	△3,925百万円
■ 法人税等支払額	△2,012百万円
投資活動によるキャッシュ・フロー	
■ 投資有価証券の取得による支出	△297百万円
■ 有形固定資産の取得による支出	△189百万円
財務活動によるキャッシュ・フロー	
■ 短期借入金の純増	3,690百万円
■ 配当金の支払額	△313百万円

■ 四半期連結貸借対照表 (単位:百万円)



UKCグループのセグメント別業績状況

UKCグループは、業界トップの売上規模を誇るエレクトロニクス商社です。

事業セグメントは、イメージセンサーやタッチパネル及び液晶パネル関連部材の取扱いを中心とする半導体及び電子部品事業、放送用カメラをはじめとする業務用製品の取扱いを中心とする電子機器事業、NFC[※]・フェリカ対応の非接触ICカード関連製品の取扱いを中心とするシステム機器事業、の3部門に分かれます。競争力のあるこれらの取扱い製品に、専門エンジニアリング組織によるきめ細かな技術サポート、EMS（電子機器受託製造サービス）、半導体・電子部品の信頼性試験や環境物質分析サービスを組み合わせることにより、お客様に満足いただけるソリューションを提供しております。

※Near Field Communication: 近距離無線技術の国際標準規格。ソニー規格フェリカとの下位互換性を持つ。

半導体及び電子部品事業

売上高構成比 93.8%

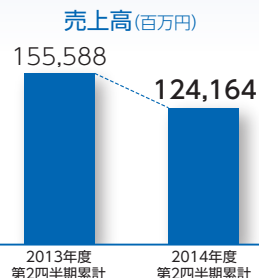
事業セグメント業績状況

半導体及び電子部品事業におきましては、主に海外のスマートフォン向け製品の販売が減少したことにより、減収となりました。また、前年同期に海外連結子会社において計上した貸倒引当金の影響は剥離したものの、減収に加え、Wintek社関連の貸倒引当金の影響により、セグメント利益も減益となりました。

以上の結果、売上高は1,241億64百万円（前年同期比20.2%減）、セグメント利益は24億36百万円（前年同期比23.7%減）となりました。



7月に開催された「TECHNO FRONTIER 2014」に(株)UKCエレクトロニクスがトランスフォームジャパン(株)に協賛・出展



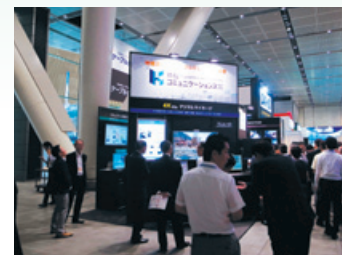
電子機器事業

売上高構成比 5.2%

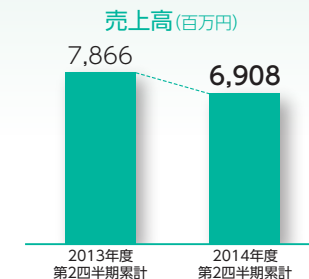
事業セグメント業績状況

電子機器事業におきましては、前年同期にあったような大型案件が下期にずれこんだことや景気刺激策等に伴う昨年度の顧客需要増の一部反動により減収となりましたが、粗利率の改善や固定費の削減により、セグメント利益は改善しました。

以上の結果、売上高は69億8百万円（前年同期比12.2%減）、セグメント利益は37百万円（前年同期比37百万円の改善）となりました。



7月に開催された「ケーブル技術ショー」に共信コミュニケーションズ(株)が出展



システム機器事業

売上高構成比 1.0%

事業セグメント業績状況

非接触ICカード関連事業におきましては、電子マネー関連ビジネスが引き続き好調に推移し、売上が伸びました。また、半導体及び電子部品の信頼性試験・環境物質分析サービス事業におきましては、売上はほぼ横ばいだったものの、粗利率が改善しました。

以上の結果、売上高は13億26百万円（前年同期比13.0%増）、セグメント利益は1億14百万円（前年同期比20.1%増）となりました。



7月に開催された「FeliCa Connect 2014」に(株)UKCエレクトロニクスが出展

